

第 26 話：最近におけるサンマ缶の販売動向

日本水産缶詰輸出水産業組合・日本水産缶詰工業協同組合
専務理事 松浦 勉

「サバ缶詰を食べよう」シリーズでは、第 1 話が「テレビ番組によりサバ缶詰人気上昇」、第 2 話が「消費拡大に伴うサバ缶詰の新商品開発」、第 3 話が「中央水産研究所のサバ缶マニア」、第 4 話が「サバ缶詰を使ったご当地料理」、第 5 話が「レシピ本にみるサバ缶詰料理」、第 6 話が「サバ缶詰レシピ本の出版動向」、第 7 話が「レシピ本とテレビ番組がきっかけを作ったサバ缶ブーム」、第 8 話が「統計資料からサバ缶ブームをみる」、第 9 話が「サバ缶ブーム下における青物 3 魚種缶詰の販売金額の動向」、第 10 話が「サバ缶の調理方法別消費動向」、第 11 話が「サバ缶ブーム期におけるサバ缶の輸入を含む供給動向」、第 12 話が「マグロ缶ブームとサバ缶ブームの比較」、第 13 話が「小売店舗におけるサバ缶の販売状況」、第 14 話が「ポルトガルの水産缶詰事情」、第 15 話が「八戸市で開催された鯖サミット」、第 16 話が「水産高校とサバ缶詰」、第 17 話が「戦後における水産缶詰の生産量と輸出量の概要」、第 18 話が「戦後の我が国における主要水産缶詰の輸出量動向」、第 19 話が「戦後の日本人における水産缶詰の嗜好の変化」、第 20 話が「サバ缶の調理形態別国内消費量の動向」、第 21 話が「イワシ缶の調理形態別国内消費量の動向」、第 22 話が「サンマ缶の調理形態別国内消費量の動向」、第 23 話が「戦後における青物 4 魚種による缶詰生産の連携」についてお話させていただきました。第 24 話が「最近におけるサバ缶の販売動向」、第 25 話が「最近におけるイワシ缶の販売動向」についてお話させていただきました。第 26 話は、「最近におけるサンマ缶の販売動向」についてです。

株式会社「KSP-SP」の POS データには、月報（販売金額が上位 50 品目）と年報（販売金額が上位 100 品目）の 2 つがあり、年報には地区別ランキングも掲載されています。まず月報を用いて、表 1 に、「水産缶詰（マグロ・カツオ以外）の上位 50 品目における調理形態別サンマ缶の販売金額順位の推移」を示しました。ここでは、年間の国内消費量が多い 12 月のデータを用いました。

2010～2016 年における上位 1 位と 2 位は、いずれも「サンマ蒲焼き缶」でしたが、2017 年には「サンマ蒲焼き缶」が 3 位に後退しました。2017 年秋からサバ缶ブームが起きたことにより、上位 1 位と 2 位がサンマ缶からサバ缶に入れ替わったものと思われます。

サンマ缶の合計品目数をみますと、2011 年が 9 品目のピークであり、2012～2017 年には 5 品目以上で推移しました。2018 年にはサンマ缶価格の値上げにより 2 品目に減少しましたが、翌 2019 年には 5 品目に回復し、2020 年が 4 品目でした。調理形態別には、2010～2016 年には蒲焼きの 3～6 品目に加えて、味噌煮、味付け、水煮、その他（昆布巻、塩焼き）がみられましたが、2017～2020 年には蒲焼きのみになりました。

表1. 水産缶詰（マグロ・カツオ以外）の上位50品目における調理形態別
サンマ缶の販売金額順位の推移

販売金額が多い品目の順位	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
	12月	12月	12月	12月	12月	12月	12月	12月	12月	12月	12月
1	蒲焼	蒲焼	蒲焼	蒲焼	蒲焼	蒲焼	蒲焼				
2	蒲焼	蒲焼	蒲焼	蒲焼	蒲焼	蒲焼	蒲焼			蒲焼	
3								蒲焼			
4									蒲焼		蒲焼
5											
6											
7											
8											
9					味付						
10											
11	蒲焼			蒲焼							
12								蒲焼			
13						蒲焼					
14					蒲焼						
15		蒲焼									
16			蒲焼	味付				蒲焼			
17						蒲焼	蒲焼				
18						味付					
19											蒲焼
20		味付									
21	蒲焼										
22			味付							蒲焼	蒲焼
23											
24							味付				
25											
26	蒲焼	蒲焼	味噌煮		味噌煮						
27				味噌煮							
28	味付	蒲焼									
29		味噌煮						蒲焼			
30											
31		昆布巻									
32						味噌煮					
33											
34									蒲焼	蒲焼	
35	味噌煮									蒲焼	
36		蒲焼									
37			蒲焼								
38											
39	蒲焼		蒲焼								
40											
41											
42											
43											
44											
45				蒲焼							蒲焼
46						塩焼き	味噌煮				
47										蒲焼	
48							蒲焼				
49			水煮					蒲焼			
50				水煮							
サンマ缶の合計品目数	8	9	8	7	5	7	6	5	2	5	4
調理形態別内訳	蒲焼	6	6	5	4	3	4	4	5	2	5
	味噌煮	1	1	1	1	1	1	1			
	味付	1	1	1	1	1	1	1			
	水煮			1	1						
その他		1				1					

資料：全国販売POSデータ（KSP-POS、缶詰時報）

サンマ缶は、サバ缶やイワシ缶と異なり、推定生産金額が「缶詰時報」に掲載されていないので、推定生産金額を国内生産量で除してサンマ缶価格（kg 当たり価格）を算出することができません。このため、サンマ缶価格は、販売金額が最も多い「マルハニチロのサンマ蒲焼き缶（内容重量が 100g）（商品名が、さんま蒲焼 EOK5A）」の平均売価を用いました。平均売価（12 月）によるサンマ価格は、2010～2013 年が 80 円台、2014 年が 90 円、2015 年と 2016 年が 100 円台、2017 年が 110 円であり、価格が比較的安定していました。しかし、2017 年に原料価格が上昇したため、2018 年のサンマ缶価格は 150 円に高騰しました。

表 2. 水産缶詰（マグロ・カツオ以外）の販売金額上位 100 品目におけるサンマ缶の調理形態別地区別ランキング（2019 年）

販売形態	順位	地区別ランキング									
		北海道	東北	北関東	首都圏	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
蒲焼き	5	8	7	9	6	3	6	10	4	1	2
	24	6	7	9	10	8	5	2	2	4	1
	25	9	6	8	3	10	5	4	7	2	1
	49	4	3	2	7	8	9	10	5	6	1
	64	7	10	3	2	5	1	9	8	6	4
	75	10	3	1	6	2	8	9	5	7	4
	単純平均順位	9	7	4	5	7	5	9	3	2	1
味付け	67	2	1	3	6	5	8	7	4	10	9
味噌煮	78	2	1	3	7	5	8	8	4	10	6
水煮	92	3	1	4	2	6	8	10	9	5	7
単純平均順位(蒲焼き以外)		2	1	3	4	5	8	9	6	9	7
資料：日刊水産経済新聞(2020年2月4日)(出典：KSP-POS)											

次に、年報を用いて、表 2 に、「水産缶詰（マグロ・カツオ以外）の販売金額上位 100 品目におけるサンマ缶の調理形態別地区別ランキング（2019 年）」を示しました。年報の地区別ランキングは、全国を北海道、東北、北関東、首都圏、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州の 10 地区に区分しています。なお、表 2 において、ランキングの対象となる品目は、全国 10 地区のうち 8 地区以上で販売されている品目を対象とし、販売される地区が 7 地区以下の品目は割愛しました。

2019 年の年報では、100 品目中サンマ缶が 9 品目を占めました。その内訳をみると、蒲

焼きが6品目（うち、50位以内が4品目）で一番多く、次いで味付けが1品目、味噌煮が1品目、水煮が1品目であり、蒲焼き以外はいずれも50位以内には入っていません。

調理形態別地区別のランキング（単純平均順位）をみると、蒲焼きは九州が1位、四国が2位、中国が3位であり、西日本での消費が多い。味付けと味噌煮、水煮は東北が1位、北海道が2位または3位であり、北日本での消費が多いです。

表3. 神奈川県横浜市H駅周辺における小売店舗タイプ別サンマ缶の販売状況

小売店舗のタイプ	小売店舗の名称	サンマ缶の調理形態						うち、国内産の品目数	うち、輸入した品目数	うち、大量販売の有無
		蒲焼き	味付け	水煮	味噌煮	その他	計			
デパート	ザ・ガーデンズ自由が丘	1	2	1			4	4		無
スーパーマーケット	イオン	1				1	2	1	蒲焼き1(タイ)	無
	コープ	3	1		1		5	5		無
	東急ストア	3	4	2			9	9		無
ディスカウントストア	オーケー	4	1		1	1	7	6	蒲焼き1(タイ)	無
	オリンピック	3	1	1	1		6	6		無
コンビニエンスストア	セブンイレブン	2					2	2		無
	ファミリーマート	2					2	2		無
	ローソン	3				1	4	4		無
百円ショップ	キャンドゥ	1					1	0	蒲焼き1(タイ)	無
	シルク	1				2	3	2	その他1(タイ)	無
	ダイソー	1					1	0	蒲焼き1(タイ)	無
合計		25	9	4	3	5	46	41	5	

(注1)2020年7月23日・8月16日に販売状況調査を実施

表3に、「神奈川県横浜市H駅周辺における小売店舗タイプ別サンマ缶の販売状況」を示しました。H駅周辺の小売店舗（12店舗）が販売している調理形態別サンマ缶の合計（延べ品目数）をみると、蒲焼き（25）、味付け（9）、その他（5）、水煮（4）、味噌煮（3）の順に多かったです。「その他」は、照焼き、塩焼き、煮付けなどがありました。

サンマ缶の品目数は、東急ストア（9）、オーケー（7）、オリンピック（6）の順に多かったです。また、輸入されたサンマ缶詰は、すべてタイ産でした。ザ・ガーデンズ自由が丘とイオンでは、蒲焼きが1品目だけでしたが、その他のスーパーマーケットやディスカウントストア、コンビニエンスストアでは、複数の蒲焼きを販売していました。

今回は、千葉県銚子市の水産缶詰の動向についてご紹介します。引き続きよろしくお願ひします。